



目次 ● 次回展示のお知らせ 特別展「流行をつくる―三越と鷗外―」／展示会場から／コラム「三陸海岸の記憶」東直子(歌人)／特集 森鷗外記念館で現代アート！／活動報告 鷗外記念館講演会 平野啓一郎「鷗外と自由」レポート／ボランティア活動ノート／編集後記／下半期開館カレンダー／これから
の催しもの 2014年10月〜12月

三井呉服店は地方御客様が多から御買物の便利を博し、物は反物の品柄色合模様の柄及び代價の太畧等法認めの上三井銀行又は其取引銀行ある地は其爲替又或ハ郵便爲替等にて送金相成候得し、精々撰定はり何方へなりとも無運賃にて品物御送り申上べくそ。

御婚禮其他数多き御買物の節は汽船運重到る處へ便利の今日御上京の上御来店下され候へは御好み次第の品々御入り其代價の便宜又品物の良好なる地方よりの御買物は比ぶれば旅費などは忽ち御埋め合相成り候何の御使用向なる也知れずそ。

品物能くまで上等にて摺柄柄は能くまで新奇な品物は色さめす仕立物は丁寧精細又模様類は数多の畫工法法支通り何でも多額で相認め夫れで直段の他より幾段も便宜なるは三井呉服店の専賣の由座そ。

明治二十九年九月 東京市日本橋區駿河町

本店 三井呉服店
電話番號 五百八十五番
千八百拾七番
大阪市東區高麗橋
支店 三井呉服店



三井呉服店陳列場の地方向けポスター 明治29年 株式会社三井物産所蔵

展示のお知らせ

特別展

流行をつくる —三越と鷗外—

あこがれのブランドやトレンド商品など、最先端の流行をいち早く紹介してきた日本のデパート。インターネットの普及で買物が便利になった今でも、旬のアイテムが魅力的に演出されたショーウィンドーや店内のディスプレイなどのデパート空間は、私たちが華やかで豊かな気持ちに導いてくれます。

三越は日本最初のデパートです。明治38(1905)年1月2日に発せられた「デパートメントストア宣言」がその始まりとされています。流行や趣味といった文化が強く意識されるようになったのもこの頃からでした。このような時流の中で三越は、流行を意識してつくるものとして、PR誌の発行、流行会などの広報文化活動を積極的に展開しました。そして、これらの活動に森鷗外も関わっていたのです。

展覧会では、当時の写真や鷗外の家族によって書き記された三越の想い出から、明治30年代〜大正初めまでの三越を振り返ります。そして、PR誌や書簡などの資料を交えながら、日本最初のデパートとして三越が手掛けた流行戦略や文化活動と鷗外の関わりを紹介します。ヨーロッパの最新情報を発信していた鷗外は、流れ行く時代をどのように感じていたのでしょうか？鷗外が見つめた「流行」を探ります。



1 本店仮営業所の外観 明治41年 ★
2 本店仮営業所の売場の様子 ★
3 明治44年頃の包装紙 ★
4 『詩三越』『時好』明治40年2月 ★
5 坪井正五郎筆森鷗外 明治35年6月16日消印
6 大正6年頃の包装紙 ★
★株式会社三越伊勢丹所蔵



会期 平成26年9月13日(土) - 11月24日(月・祝)
※会期中の休館日 9月24日(水)、10月28日(火)
会場 文京区立森鷗外記念館 展示室1、2
開館時間 10時~18時(最終入館は17時半)
※9月中の金曜日と11月15日(土)、16日(日)は20時まで(最終入館は19時半)
観覧料 一般500円(20名以上の団体:400円)
中学生以下、障がい者手帳ご提示の方と同伴者1名まで無料

関連事業のお知らせ

特別展期間中に関連講演会を予定しております。事前申込制、定員50名です。

「三越の近代化と、森鷗外一家」

日時 10月18日(土) 14時~15時半
講師 和田博文氏(東洋大学教授)
会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室
料金 無料
申込締切 10月4日(土) 必着

「明治の文化サロン」

「森鷗外と流行会」をめぐって
日時 11月16日(日) 14時~15時半
講師 宗像和重氏(早稲田大学教授)
会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室
料金 無料
申込締切 11月1日(土) 必着

申込方法

往復はがき ◆ 往信に「○月○日講演会」・氏名(ふりがな)・住所・電話番号を、返信に住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館「展示関連講演会」受付係までご応募ください。
Eメール ◆ 件名に「○月○日講演会」、本文に氏名(ふりがな)・電話番号・Eメールアドレスを明記の上、
bnk.event@morigai-kinenkan.jp
までご応募ください。

ギャラリートーク

当館学芸員が展示解説を行います。
10月8日、22日、11月5日、19日
(いずれも水曜日) 各回14時~(30分程度)
申込不要。展示観覧券が必要です。

展覧会図録のご案内

当館1階ショップにて「流行をつくる—三越と鷗外—」展の展覧会図録を販売中！鷗外が見つめた流行を、ちよつと覗いてみてください。
〈監修・巻頭論考〉
和田博文氏(東洋大学教授)
〈コラム寄稿〉
藤木直美氏(日本女子大学非常勤講師)
宮内淳子氏(早稲田大学非常勤講師)
西山純子氏(千葉市美術館学芸員)

「三越」第1巻第5号(明治44年7月)掲載の鷗外作品「流行」の復刻を掲載



価格: 860円
(画像はイメージです)

定期観覧券

『鷗外パス』販売開始!

文京区立森鷗外記念館の定期観覧券『鷗外パス』が9月に販売開始!『鷗外パス』とは、特別展の約2回分の料金で、ご購入日から1年間、何回でもご観覧いただけるお得な定期観覧券です。1回の観覧につきスタンプを1個押印します。スタンプ5個でモリキネカフェのドリンク1杯を、10個でドリンク・お菓子のセットをプレゼント!高校生以上の方ならどなたでもご購入いただけます。お得な『鷗外パス』をぜひご利用ください!



価格: 1200円

展示会場からI

D'Orsay, or The Complete Dandy

相模久美子(近代文学研究・鶴見大学大学院博士前期課程修了)

鷗外はこの本 *D'Orsay, or The Complete Dandy* (以下、*D'Orsay* と略記) を短編小説「流行」の末部に登場させています。「流行」が、雑誌「三越」(第1巻第5号、1911年7月)に掲載された際、鷗外は *D'Orsay* の書名とともに、著者・出版社も記していましたが、架空のものとして受け取る向きもありました。この本の実在は疑うべくもありません。(拙稿「鷗外『流行』論」、「文学」2001年11・12月号岩波書店、を参照)

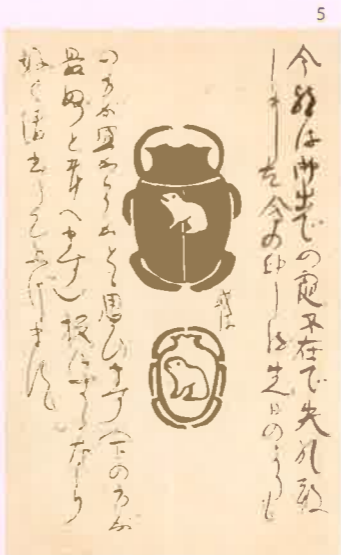
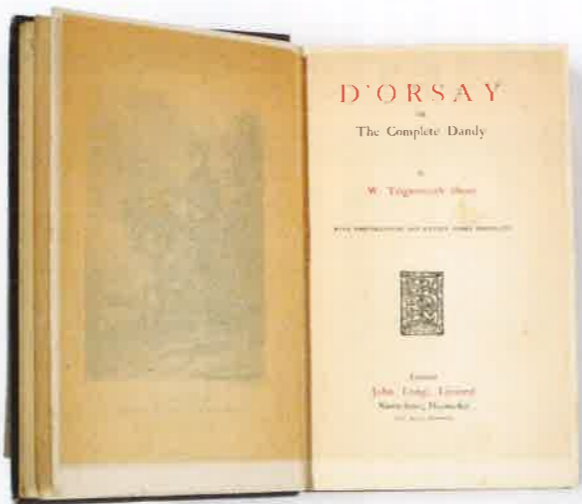
D'Orsay は、仏国の伯爵・Alfred d'Orsay (1801-1852) に関する伝記書です。彼は、有名なダンディであり、様々な流行を生み出した人物としても知られています。この本の中に紹介された逸話の一つを、鷗外は少しだけ形を変えて小説に取り込みました。「三越の使」のくだりです。そうした経緯もあり、*D'Orsay* が小説末部に紹介されたのでしょう。

この本は、英国のジャーナリスト W. Teignmouth Shore によって書かれ、ロンドンの出版社 John Long から、1911年(当時の英国出版案内 *THE PUBLISHERS' CIRCULAR AND BOOKSELLERS' RECORD* には6月11日)



の記述あり)に出版されました。丸善の *CATALOGUES OF BOOKS* には、通常洋書は「欧州なれば三ヶ月以内」に日本への取り寄せが可能だと記されており、当時の流通状況を窺い知ることができます。鷗外の「流行」の原稿は、日記によると明治44年(1911年)6月15日には脱稿されていると考えられますので、少なくともそれ以前には鷗外が *D'Orsay* を目にしていてと推察されますが、残念ながら、それがいつ頃なのかについては不明です。いずれにしても、鷗外は極めて新しい本を小説の中で紹介していたことになりそうです。

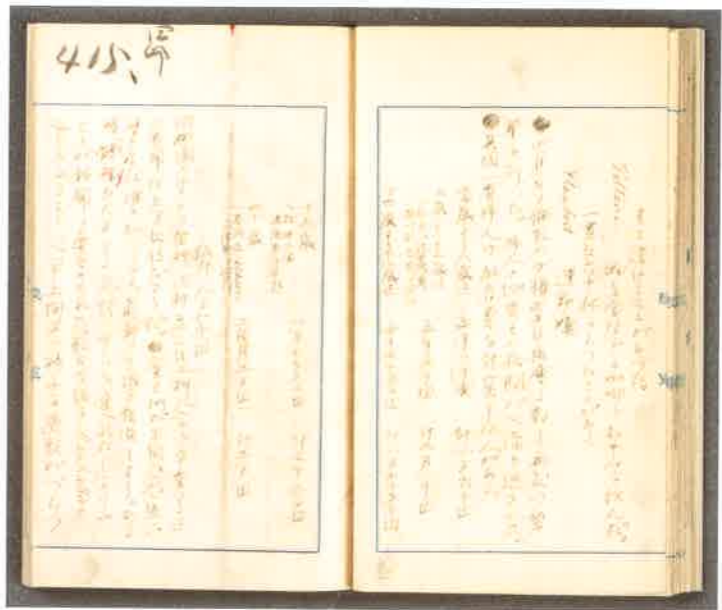
著者 W. Teignmouth Shore (1865-1932) についても御紹介しておきましょう。彼に関する資料はほとんどありませんが、*WHO WAS WHO, VOL III (ADAM & CHARLES BLACK, 1941年)* に記述があり、彼は、ウェストミンスタースクール、そしてオックスフォードで学んだ後、ジャーナリストとなり、数々の新聞などに記事を書いていた人物のようです。また、出版物も多く、中でも、彼の *D'Orsay* は、ドルセイ伯爵に関する伝記資料として常に参照されています。さて、この度、私蔵して居りました *D'Orsay* を、鶴見大学図書館に寄贈することと致しました。それに先立ちまして、文京区立森鷗外記念館の特別展「流行をつくる—三越と鷗外—」に展示の機会をいただけることとなりました。鷗外ゆかりの地での初公開となりましたことは、本にとりまして大変に幸甚なことです。記念館の皆さまには心より御礼申し上げます。



原稿

『むく鳥通信』

[200035]



『むく鳥通信』は、西欧各都市の時事通信で、明治42年から大正2年まで雑誌「スバル」にほぼ毎月(合計55回)連載されました。

椋鳥には、「無垢」「おのぼりさん」などの意味もあります。題名通りの視点で、世界の中央の政治・経済・文化・思潮・流行など雑多な出来事を報じています。鷗外はヨーロッパの新聞・雑誌を定期購読して情報収集をし、海外滞在中の知己からの便りによって題材を得ていたようで、即時的な速報形式も新鮮だったと言います。

なかには世界の最先端に注目した記事もありました。当館所蔵の原稿は、明治42年4月と6月掲載のものです。ここでは「倫敦の女権党」の動向が追われています。これは世界で最初に起った女性参政権獲得運動でした。

『むく鳥通信』をふまえ、明治44年に作品『さへづり』が書かれます。作中で、前者のロンドンの女性参政権獲得運動の記事が、「Suffragettes*の騒ぎ」として登場しています。

*19、20世紀初頭の英国の女性参政権獲得運動は2派あり、穏健派はsuffragist、激闘派はsuffragetteと呼ばれていた。

コラム

三陸海岸の記憶

東直子(歌人)

森鷗外が日露戦争の従軍先で書き残した詩歌集『うた日記』は、自分が今生きていることの意味を深く考察し、その場の記憶とともに永遠に書き残そうとしたからだろう。

この夏、三陸海岸を訪ねた。波に削られた岩が形作る険しくて野性的な一帯の景色に圧倒されながら、三年前に起きた東日本大震災で喪失したものと対峙することになった。三年を経た今だからこそその記憶を、私は書き残したいと思う。

三陸の海を体感するため、サッパ船と呼ばれる小型漁船に乗せてもらって、あの大津波が押し寄せた三陸の海に出た。「サッパ船アドベンチャー」という、地元の漁師さんらが一般客向けに行なっている三陸沖周遊である。高さ二百メートルの絶壁「ミノシタの断崖」や、ある角度から見るとゴリラの横顔にそっくりな「ゴリラ岩」など、数々



の特長的な岩に、八人も乗ればいっぱい小さな船で、ぐっと近づいていく。

私が乗ったサッパ船の船長のYさんは、津波で家や人が流されていくのを間近で見ました。そのため震災後は気持ちが沈んで何もできなかったという。「できればあのときのことは思い出したくはないけれど、生きているうちに伝えていくことが大事だと思うようになった」と、津波の力でなぎ倒された防波堤や、津波に攫われた漁師小屋について、当時の写真とともに説明してくれた。震災後一時休止していたサッパ船はその年の六月に再開し、悲惨な経験をした海を、それでも愛し続ける人々とともに、その魅力分け与え続けてくれたのだ。

私がサッパ船に乗った日はあいにくの曇り空で風もあり、外海に出たところで雨も降ってきてしまったが、一人で船を操縦するYさんは、「今日は比較的波がおだやかなので、入ってしまいましょ」と、荒波で削られてきた岩の空洞を、すいすいと小型船で抜けていった。

そこから外海に出た船は、驚くほど早く進む。Yさんの腕が確かなのは実感していたが、ざつぱりと波をかぶる場面もあり、もしかするとこのまま岩にぶつかって海に放り出されるかもしれない、と緊張して船べりの太い縄を握りしめた。

「あの岩の上に巣があるのが見えますか」 Yさんがそう言って指を差す先の、高い高い岩の上に、小枝のからまる鳥の巣が見えた。

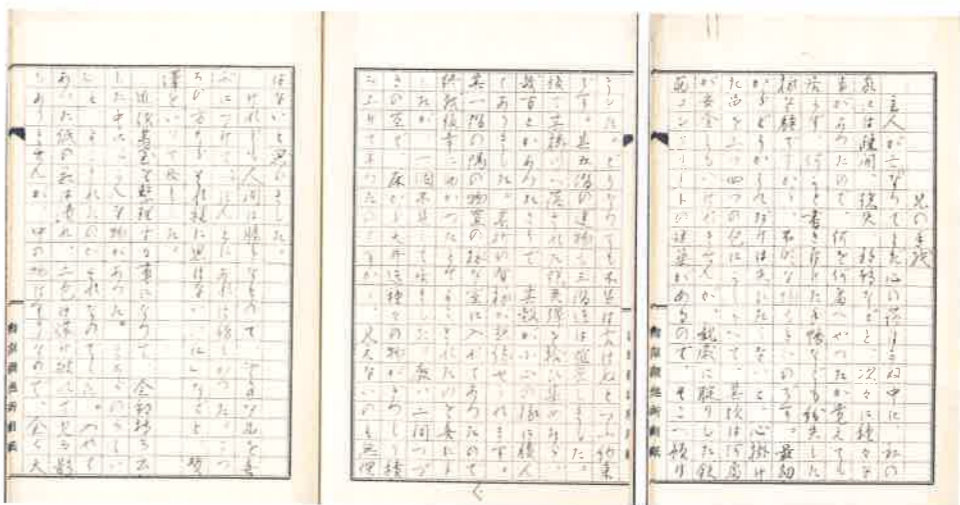
「ミサゴが巣を作っているんです。あそこに二羽いますねえ」

ミサゴは、魚を主食とする大型のタカで

小金井喜美子自筆原稿

『兄の手紙』

[100158]



鷗外の8歳下の実妹・喜美子は、明治3年に津和野で生まれました。兄の影響で幼い頃から文学に親しみ、明治22年、鷗外や落合直文らと共に訳詩集『於母影』を発表します。翌年には『聊齋志異』を和文調に訳した『皮一重』を「志がらみ草紙」に発表し、翻訳文学者として注目されるようになります。『浴泉記』『名譽婦人』など、喜美子が翻訳し好評を博した著作は、明治30年に発行された鷗外著『かげ草』に収められました。

喜美子は明治21年に東京大学解剖学教授の小金井良精と結婚し、4人の子どもをもうけました。喜美子は家事や育児などに追われ文筆業が十分にできないことを、当時小倉に赴任していた鷗外に相談します。鷗外からの返信は、「いかなる境界にありても平気にて、出来る丈の事は決して廢せず、一日は一日進み行くやう心掛くるときは、心も穩になり申者に候」と、喜美子を優しくたしなめ諭すものでした。

昭和31年1月26日、喜美子は86歳で亡くなります。その数日後に、この原稿が収録された『鷗外の思ひ出』が発行されました。

ある。よく見ると、巣の中に二つの鳥の影を捉えることができた。草も木も生えていない、あんな岩の上にも命の営みがあると思ふと胸が熱くなった。

以前、陸中海岸国立公園という名がつけられていた三陸海岸一帯は、震災で受けた大きな被害からの再生への願いを込めて「三陸復興国立公園」という名前に変わった。南三陸のリアス式海岸と北三陸の隆起型の海岸の境目にあたる、三陸海岸のほぼ真ん中に浄土ヶ浜がある。ここを訪ねた江戸時代の僧侶、靈鏡竜湖が「さながら極楽浄土のごとし」と感嘆したことから名づけられたという。

確かに、青い海をキャンパスに見立てて浄土の世界を描いたのだと信じてしまえるような神秘的な風景だった。

海の波がふりかぶる岩肌はほぼ裸だが、岩の頂上には松が幾本も生えている。遠くから見ると、松が直接岩から生えているようである。

岩はいずれもつるりとした一枚岩ではなく、こつこつとした地層をなしている。何万年、あるいは何億年も前の時代の砂や泥や生き物らが堆積し、今日の前にあらわれているのだ。地層は、地殻変動を如実に示すように傾いている。その地層のわずかな隙間に溜まった土に根を張り、スカシユリや桔梗が可憐な花を咲かせていた。

浄土ヶ浜の近くに、龍泉洞という鍾乳洞がある。洞窟の奥では、百メートルの深さの豊かな地底湖をたたえている。湖に沈めた電灯によってライトアップされた湖は、透明感あふれる水色に輝き、夢の世界のようである。



浄土ヶ浜の朝焼け

険しい崖に開かれた海と、幻想的な洞窟。それらとつながっている大地は、長い長い時間をかけて変化し、現在の姿をしている。変化の途上の大地に、私たちは居候させてもらっているのだ。雄大な景色を前に、謙虚な気持ちになると同時に、今この地に生きていることの偶然と奇跡を痛切に感じた。

東直子

歌人、作家。歌誌「かばん」、俳句同人誌「鏡」所属。1996年「草かんむりの訪問者」で第7回歌壇賞受賞。歌集に『春原さんのリコーダー』『青卵』『東直子集』『十階』、小説に『とりつくしま』『さようなら』『ゆずゆずり』『らいほうさんの場所』、エッセイ集に『耳うらの星』『千年ごはん』、共著に『回転ドアは、順番に』『また巡り来る花の季節は』『あめ ぼほぼ』(絵本)等、著書多数。最新刊はエッセイ集『鼓動のうた』。

新・観潮楼歌会
森鷗外記念館で現代アート！ Vol.2

生命の連鎖・ イメージの連鎖

2014年9月13日(土)から11月24日(月・祝)まで「森鷗外記念館で現代アート！ Vol.2 生命の連鎖・イメージの連鎖」と題して現代美術の展示を行います。
本企画は、鷗外の仕事や作品を、現代的価値や意味とつなげる試みとして、現代美術の作品をエントランスや図書室、カフェ等の無料スペースで展示するもので、昨年引き続き2回目の実施となります。ディレクションは美術評論家・倉林靖氏、出品作家は作間敏宏氏と森本太郎氏の二人です。
今年のテーマは「生命の連鎖、イメージの連鎖」です。

森鷗外の作品には、軍医としてつとめた医学者としての立場から、また広く文学者・表現者としての立場から、「生命」の「連鎖」繋がりをテーマにしたものが多くあります。加えて、中国に古来より伝わる文献に対する考証学的興味を示したのも、また日本の詩歌の表現の歴史の変遷に対する深い造詣もみられるものなど、鷗外の作品からは、個々の文化における表現／詩情(イメージ)の伝播に対する関心がうかがわれます。これは、生命における遺伝的情報の連鎖と、社会における文化的情報(イメージ)の連続性を、等しく重要視するまなざしであると言えるでしょう。

活動報告 鷗外忌記念講演会 「鷗外と自由」実施レポート

7月9日の鷗外の命日・鷗外忌を記念して、7月12日、作家・平野啓一郎氏に「鷗外と自由」というテーマで講演いただきました。
幼稚園時代、「安寿と厨子王(山椒大夫)」の山椒大夫を先生のご指名で演じたことが鷗外と平野さんの最初の出会いであったという意外なお話が披露され、和やかな雰囲気の中、講演は始まりました。
『舞姫』『山椒大夫』『文づかひ』等々を例に挙げながら、鷗外は処女作から晩年の作品まで、「貫して『個人』の力では抗えない力」について描いており、これが鷗外作品の本質であると語られました。そして、このような作品世界が生まれた背景と鷗外の生涯についてお話は進んでいきました。鷗外が活躍した明治時代は、封建制から一変、個人の主体性が求められた時代であり、同時に国家の目標に個人の人生が直接結びつけられた時代でもありました。鷗外は留学先の欧州で個々の「自由」に触れます。その一方で、優秀であったがゆえに国家のために働く道を選ばざるを得なかった鷗外は、人々の本当の自由はどこにあるのか、自由に生きていくということはどういうことなのかを考えたのだらうと、講演会テーマの核心が語られました。
理論的で冷たい印象がある鷗外ですが、遺伝や環境、社会等の不可抗力に抗って必死に生きる私たち人間の生きざまを、繊細で優しい理解を持って描き続けた作家だったのではないかと。そして、そこに共感を覚える、と平野氏は締めくくられました。

「イメージ」の連鎖の在り様を、作間敏宏氏と森本太郎氏の二人の現代美術家の作品で現代につなぎます。

作間敏宏氏は電球や布、紙などの生活素材を用いた様々なインスタレーションによって人間の生命の連鎖、共同体(コロン)とはなにかというテーマを一貫して追求している作家です。本展では、集団の中の個の在り様をカラーフィルムによる風車で表現した「colony」をはじめとするインスタレーション作品3点を、エントランス・庭園・図書室で展開します。



作間敏宏「colony」2005 写真とフィルムによるインスタレーション
愛知万博瀬戸日本館

森本太郎氏は、雑誌や広告などにあふれる花や風景、人物のイメージ(＝他者)によって複製されたイメージをコンピュータで加工したのちに、アクリル絵の具と油彩でキャンバスに描画することで、私たちとイメージを取り巻く関係の再考を試みている作家です。本展では、当館をモチーフとした新作を含む絵画作品20数点をカフェや図書室、階段等で展開します。



森本太郎「ミラノの花」#10
アクリル・油彩・キャンバス 2013

関連事業として、山田せつ子氏(コンテンポラリーダンサー)と松田弘之氏(能管)によるダンスパフォーマンス、金大偉氏の映像作品が夜の記念館を彩る映像パフォーマンス、同氏による音楽ライブも行います。
芸術の秋のひと時、明治・大正の文豪森鷗外の旧居跡で、鷗外が私たちに残したものに思いを馳せてください。

関連事業のお知らせ

ダンスと音楽と映像による パフォーマンス

ダンス 山田せつ子氏
音楽 松田弘之氏(能管)
映像 金大偉氏
日時 11月14日(金) 19時～20時
会場 文京区立森鷗外記念館
地下1階 導入展示室
料金 1500円
定員 40名(事前申込制)
申込締切 10月30日(木) 必着

申込方法

往復はがき◆往信に「○月○日イベント」・氏名(ふりがな)・住所・電話番号を、返信に住所・氏名を明記の上、〒113-0022東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館までご応募ください。
Eメール◆件名に「○月○日イベント」、本文に氏名(ふりがな)・電話番号・Eメールアドレスを明記の上、bnk-event@morogai-kinenkan.jpまでご応募ください。
*申込は、一通につき1名様、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。
*申込締切後1週間以内には抽選結果をお知らせします。
*ご不明な点等ございましたら、文京区立森鷗外記念館にお問い合わせください。

空間映像インスタレーション "Spiritual Harmony"

映像 金大偉氏
[機材協力]
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
[協力]
関東学院大学 理工学部
映像クリエーションコース
日時 11月14日(金) 17時～18時 / 15日(土) 16日(日) 17時～20時
*雨天中止
会場 文京区立森鷗外記念館 外壁
料金 無料

金大偉 音楽ライブ "Deep Circulation"

演奏 金大偉氏
ゲスト 倉林靖氏
日時 11月15日(土) 18時半～19時半
会場 文京区立森鷗外記念館
1階 エントランス
料金 無料

ボランティア活動ノート

鷗外を歩こう

今秋、いつも館内を案内してくれている解説ボランティアたちが記念館を飛び出し、文学散歩を行うことが決定しました。ここでは、文学散歩実施までの道のりをご報告していきます。

今年5月、倉本幸弘先生(森鷗外記念会常任理事)による解説ボランティアのための文学散歩講座を経て、5人の有志が集まりました。6月に日程や所要時間を決定し、7月の打ち合わせでは、各自作成の仮想コースをもとに構想を進めていきました。白熱の議論の末、鷗外ファンだけではなく、散歩好きの方や鷗外に関心がない方でも楽しんでもらえるような散歩を目指すことになりました。とはいえ、少しでも鷗外作品に興味をもって欲しいという思いから、作品にも触れられるようなコースをたどりま。

熱い有志達による文学散歩は、鷗外入門のきっかけになるのではないのでしょうか。



土日祝の13時と15時に、ボランティアによる館内案内を行っています。ぜひご参加ください。

編集後記

文京区立森鷗外記念館のある団子坂周辺には、汐見小学校や第八中学校、駒込学園などたくさんある学校があります。鷗外生前から残る観潮楼正門跡(当館敷下通側入口)から団子坂に抜ける道を小学生が通学路にしていたり、当館横にあるコンビニエンスストアに部活帰りと思しき中高生が列を成していたりと、たくさんの子どもの姿を見ることが出来ます。

9月7日、コレクション展「教室で出会う鷗外」鷗外と仲良くする方法」が閉幕しました。夏休みということもあり、展示内容は主に小中高校生を対象としたものでした。展覧会期間中は小中学生向けの関連クイズを実施、ほぼ毎日子どもたちが参加してくれました。アメリカ・台湾・フィリピンなど海外在住の方や、獨協中学校や白百合学園など森家に縁のある学校の生徒たちも来館してくれました。クイズは、小学1年生には少し難しく、中学3年生には少し簡単だったようです。

秋の特別展は今年も現代アート展示と同時開催。読書の秋と芸術の秋が同時に楽しめそうです。

また、11月1日は記念館の2回目の誕生日です。この日は観覧料が無料となりますので、この機会にぜひご来館ください。

平野啓一郎

ひらの・けいいちろう

愛知生まれ。京都大学法学部卒。

1998年「新潮」に投稿した作品『日蝕』によりデビューし、1999年同作で芥川賞を史上最年少で受賞。主な著作に『一月物語』(新潮社)、『決壊』(新潮社)、『ドーン』(講談社)、『かたちだけの愛』(中央公論新社)、『高瀬川』(講談社)、『私とは何か—「個人」から「分人」へ—』(講談社現代新書)、『空白を満たささい』(講談社)、『透明な迷宮』(新潮社)などがある。小説執筆活動の傍ら新聞等での美術展評や、三島由紀夫文学賞選考委員、東川写真賞審査員を務めるなど、幅広い分野で活動している。また、鷗外の全小説を読破するなど、鷗外作品から大きな影響を受けていることでも知られている。

文京区立森鷗外記念館 平成26年度後期 開館カレンダー

10月							11月							12月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
			1	2	3	4							1			1	2	3	4	5	6
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13	
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20	
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27	
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31				
1月							2月							3月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	
25	26	27	28	29	30	31								29	30	31					

特別展「流行をつくる—三越と鷗外—」
9月13日(土)～11月24日(月祝)

コレクション展「鷗外印(仮)」
11月29日(土)～2015年1月25日(日)

コレクション展「新収藏品展(仮)」
1月29日(木)～4月19日(日)

● 休館日
○ 20時まで開館

これからの催しもの

12014年
10月～12月

催しは◎以外は全て事前申込制です。詳細は、ちらしやHPをご覧ください
だくか、当館までお問い合わせください。
(応募多数の場合は抽選とさせていただきます)

*特別展「流行をつくる—三越と鷗外—」関連事業の詳細は2ページをご覧ください。
*イベントの詳細は6ページをご覧ください。

◆特別展関連講演会「三越の近代化と、森鷗外一家」*

日時 10月18日(土) 14時～15時半

◆文の京ワークショップ 読書会『雁』を読む

日時 11月8日(土) 14時～15時半

講師 倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事)
会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室

料金 500円

定員 50名 [申込締切10月24日(金)必着]

◆文の京ワークショップ 鷗外を歩こう—小説『青年』をたどる—

日時 11月9日(日) 14時～16時

講師 解説ボランティア
会場 千駄木界限

料金 500円(保険料)

定員 10名 [申込締切10月24日(金)必着]

◆ダンスと音楽と映像によるパフォーマンス**

日時 11月14日(金) 19時～20時

◆空間映像インスタレーション「Spiritual Harmony」◎**

日時 11月14日(金) 17時～18時

11月15日(土)、16日(日) 17時～20時

◆音楽ライブ「Deep Circulation」◎**

日時 11月15日(土) 18時半～19時半

◆特別展関連講演会

「明治の文化サロン—森鷗外と『流行会』をめぐる—」*

日時 11月16日(日) 14時～15時半

◆文の京ワークショップ

カリグラフィでクリスマスカードをつくる

日時 12月6日(土) 14時～16時

講師 池谷めぐみ氏(カリグラフィ・MAKIKOオフィス)

会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室

料金 800円(カリグラフィマーカー1本付)

定員 20名 [申込締切11月21日(金)必着]

★有料のプログラム参加者はイベント当日にかぎり、観覧料が免除となります。



●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅1番出口徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅1番出口徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅A3番出口徒歩15分

●バスをご利用の場合

- ・都バス草63番系統「千駄木一丁目」下車徒歩1分
 - ・都バス上58番系統「団子坂下」下車徒歩5分
 - ・Bぐる千駄木・駒込ルート「18特別養護老人ホーム千駄木の郷」下車徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511
URL: <http://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00 (最終入館は17:30)

休館日 毎月第4火曜日(祝日の場合は開館し、翌日休館)、
年末年始(12月29日～1月3日)、及び展示替期間、煙蒸期間等

文京区立
森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum